

2025年度(第54期)決算について

- ・輸送人員は前年度比4.6%増の42,667千人
- ・営業収益は前年度比3.8%増の145億3千5百万円
- ・営業利益は前年度比8.6%増の36億3千5百万円
- ・当期純利益は前年度比20.7%減の23億1千6百万円

1. 2025年度決算の概要

当期におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善が続き個人消費に持ち直しの動きがみられるなど、緩やかな回復となりました。一方、中東情勢の悪化やアメリカの政策動向の影響による景気の下振れリスクなど、先行きについて注視が必要な状況にあります。

こうした状況の中、鉄道事業者にとって最大の使命である「安全」「安心」「安定」輸送を継続的に提供する取り組みとして、自動列車停止装置の改良(C-ATS化)工事や各種設備の更新工事を実施しました。

増収に向けた取り組みについては、保有資産の有効活用を推進するとともに、記念乗車券の発売や多数のイベントを開催したほか、UR都市機構と連携した千葉ニュータウンの魅力発信を行うインスタグラムの開設などによる情報発信の強化を行い、需要喚起に努めました。また、沿線自治体や学校と連携した様々な沿線活性化施策を実施するなど、北総エリアの魅力向上や運賃値下げによる効果の発現を目指した取り組みを精力的に推進しました。

以上により、当期の輸送人員は前期に比べ1,887千人、4.6%増の42,667千人となりました。

表① 輸送人員と旅客運輸収入

		2025年度	前年比
輸 送 人 員	定 期 外	千人 14,760	% 4.5
	定 期	27,907	4.7
	合 計	42,667	4.6
旅客運輸収入計		百万円 11,433	% 3.5

当期の営業収益は、輸送人員の増加などにより、前期に比べ5億3千1百万円、3.8%の増収となる145億3千5百万円となりました。

営業費については、安全の確保を前提に最大限のコスト削減に努めたものの、賃上げによる人件費の増加や施設の老朽化、物価高騰による修繕費の増加などにより、前期に比べ2億4千2百万円、2.3%の増となる109億円となりました。

以上により、営業利益は36億3千5百万円と前期に比べ2億8千8百万円、8.6%の増益、経常利益は33億1千1百万円と前期に比べ2億7千9百万円、9.2%の増益となりました。

これから法人税等を差し引いた当期純利益は、23億1千6百万円と前期に比べ6億5百万円、20.7%の減益となりました。

なお、法人税等調整額は、前期に繰延税金資産の見積もり増加などに伴う変動があったことから、前期に比べ8億6百万円の増加となっております。

表② 比較損益表

(単位:百万円)

	2025年度	2024年度	差	増減率(%)
営業収益	14,535	14,004	531	3.8
営業費用	10,900	10,657	242	2.3
営業利益	3,635	3,346	288	8.6
経常利益	3,311	3,032	279	9.2
当期純利益	2,316	2,922	△605	△20.7

2. 今後の課題への取り組み

当社は、関係者の長年にわたるご支援により、2022年度に繰越損失を解消し、運賃値下げを実施しました。一方で、未だ約458億円という巨額の有利子負債を抱えているほか、人件費や物価、中東情勢の悪化によるエネルギー価格の上昇など、今後はより厳しい経営状況になることが見込まれます。また、テレワークの浸透や千葉ニュータウンを中心とした沿線の高齢化の進展などにより輸送構造が変化していることから、輸送需要の先行きも懸念されるところです。

こうした状況を踏まえ、当社は今後の課題について以下の通り取り組んでまいります。

(1)安全に対する取り組みの強化とサービスの向上

安全の確保は鉄道会社にとって最大の使命であり、事業存立の基盤でもあることから、鉄道施設の強じん化を推進するとともに、安全管理体制の更なる強化を図ってまいります。

また、お客様へのサービス向上については、京成グループが総力をあげて取り組んでいるBMK(ベストマナー向上)推進運動に積極的に参加していくことなどにより、お客様から信頼され、選んでいただける鉄道を目指してまいります。

(2)財務体質の健全化

当社の使命である「安全」「安心」な輸送サービスを将来にわたって「安定」的に提供していくために、今後は老朽化した施設の更新に伴う多額の設備投資を行っていく必要があります。また、人件費や物価、エネルギー価格の上昇も続くものと

見込まれることから、資金需要の増大は避けられない状況にあります。

こうした状況を見据え、今後とも一層の経費の節減・業務の効率化を進めるとともに、巨額の有利子負債に鑑み、金利動向に留意しつつ新たな資金調達を検討するなど、財務体質の一層の健全化に向けた取り組みを引き続き進めてまいります。

(3) 次の時代に向けた新たな経営の推進

当社は今後の事業運営について、人口減少や輸送構造の変化に的確に対応すべく、2022年度に「自律」「戦略」「連携」を基本方針とする成長戦略ビジョン『Next Hokuso』を策定しました。この中で、個別の戦略として「輸送サービスの向上」「トップライン(売上)を上げる」「沿線事業基盤の拡充」「効率的な事業推進」「人材戦略・企業PR戦略」の5つの柱を設定しており、これらの戦略に基づき設備投資を中心とした安全施策、人材確保の強化や人材育成制度の導入などによる人事施策、増客・増収に資する営業施策や沿線活性化施策などの各種施策を推進することで、沿線関係者の皆様とも連携しながら「鉄道事業+α」の会社を目指してまいります。

以上の通り、当社が果たすべき使命・課題について、今後も全社一丸となって取り組んでまいります。

北総鉄道株式会社 2025年度(第54期)決算資料

貸借対照表

(2026年3月31日現在)

資産の部		負債及び純資産の部	
科目	金額	科目	金額
資産の部	百万円	負債の部	百万円
流動資産	8,330	流動負債	10,294
現金及び預金	630	短期借入金	1,522
未収運賃	1,057	リース債務	17
未収金	1,515	未払金	5,675
貯蔵品	386	未払消費税等	197
その他の流動資産	4,740	未払法人税等	663
		未払費用	161
		預り連絡運賃	615
		預り金	13
		前受運賃	1,151
		前受収益	51
		賞与引当金	193
		その他の流動負債	29
固定資産	78,977	固定負債	44,713
鉄道事業固定資産	76,892	長期借入金	13,546
各事業関連固定資産	831	リース債務	10
建設仮勘定	170	長期未払金	27,700
投資その他の資産	1,083	退職給付引当金	2,930
繰延税金資産	1,083	役員退職慰労引当金	15
		その他の固定負債	509
		負債合計	55,007
		純資産の部	
		株主資本	32,300
		資本金	24,900
		利益剰余金	7,400
		その他利益剰余金	7,400
		繰越利益剰余金	7,400
		純資産合計	32,300
資産合計	87,308	負債純資産合計	87,308

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

損益計算書

(2025年4月1日から2026年3月31日まで)

科目	金額	
	百万円	百万円
鉄道事業営業利益		
営業収益	14,535	
うち旅客運輸収入	11,433	
営業費	10,900	
鉄道事業営業利益		3,635
営業外収益		
受取利息及び配当金	28	
その他の収益	85	114
営業外費用		
支払利息	416	
その他の費用	21	438
経常利益		3,311
特別利益	3	3
特別損失	2	2
税引前当期純利益		3,313
法人税、住民税及び事業税	1,024	
法人税等調整額	△27	
法人税等計		996
当期純利益		2,316

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。